

エディトリアル

横須賀市立うわまち病院小児医療センター長 宮本朋幸

各地で活躍している、またはこれから地域で診療を開始しようとしている先生方に参考になればと、この特集を企画した。

そのため今回の執筆陣は、地域で専門医として活躍しながら、「総合医の心得」を持って診療にあたっている先生方をお願いした。

小児科は、北海道厚岸の佐々木暢彦先生をお願いした。われわれ小児科専門医にとっては「有名な小児科医」であった先生が厚岸に総合医として赴任し、「ポツダム総合医」として診療していく中、総合医側から小児科を見直した事項の解説をしていただいている。「ポツダム云々」がどういうことかは、どうぞ本文をご参照いただきたい。

産婦人科は大学病院でも活躍された伊藤雄二先生が、ご自分の地域での経験と、そして、現在市立恵那病院で新しく産科を立ち上げたことも踏まえ、産婦人科医師不足地域の産婦人科医が、総合医にどのようなことまで関与していただきたいかを書いてくださっている。アメリカの家庭医の中でも産科領域の診療は行わないということも多い中、「日本の総合医」としてどう行動するかの一助になればと思う。

整形外科の伊達和人先生は、日常で遭遇する整形外科疾患の管理法と、ご自分の経験も踏まえ、注意点を教えてくださっている。高齢化が進む現在、地域での整形外科的疾患は増えていくと言われている。外傷はもちろん、関節や、脊椎の問題点に対する対応と専門医への紹介のタイミングを解説していただいている。もうひとつ、高齢化に伴い増える骨粗鬆症の診療について、治療のみならず地域で患者さんを見守るには何が必要かのヒントも教えてくださっている。

皮膚科の折戸秀光先生はまず、蕁麻疹診療について述べられている。蕁麻疹は小児科、内科領域で日常診療することが多い疾患であるが、かなりの割合でその病態が誤解されていることが多く、そこを指摘され、適切な診療への示唆を示されている。その他、総合医が地域で遭遇することが多い疾患をたくさん解説していただいている。最後の推奨図書等の部分も参考になるとと思われる。

どの執筆者の先生も、ご自分がお若いときに地域の診療所などに赴任されたことを思い出しながらかかれていであろう様子が感じられる。今回の特集は、地域で頑張っているいらっしゃる先生方、これから出て行く先生方への愛に満ち溢れたものとなっている。その先輩方の愛を感じていただき、この特集をぜひ、お役に立てていただきたい。